

第2回基山町総合計画審議会

(要点筆記)

日 時：令和6年5月29日（水）10：00～11：50

場 所：基山町役場 4階大会議室

出席委員：15人

田口英信 委員、坂本弘 委員、平野かすみ 委員、毛利博司 委員、
神原玄晃 委員、平野守 委員、天本直美 委員、宮本浩子 委員、
永尾浩一 委員、稲毛あゆみ 委員、橋本高志 委員、森田昌嗣 委員、
土肥勲嗣 委員、平川伸子 委員、天野昌明 委員

欠席委員：3人

天本博已 委員、江藤裕子 委員、藤崎広子 委員

事務局：3人

企画政策課：亀山課長、原主幹、村田主任

傍聴者：なし

随行者：1人

- 1 開会
- 2 町長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 委員の委嘱
- 5 自己紹介
- 6 会議録署名委員の選任
- 7 議事
 - (1) 基礎調査報告
 - (2) 第6次基山町総合計画基本構想（案）について
- 8 その他
- 9 閉会

1 開会

(事務局により開会)

2 町長あいさつ

本日は朝早くから本審議会にご参集いただき感謝する。まずは、本日新しく九州経済産業局地域経済部地域経済課長の平川委員がいらっしゃっているが、実は2年間役場のこども課長をされていたことがあり、その時に、基山っ子みらい館をがんばって作ってくれた。そんな方が今度は委員として来ていただくのは感無量である。天野委員も過去に鳥栖市教育長をされていて、今は鳥栖市社会福祉協議会の会長をされているので、社協の会長同士という関係である。田口委員は保育園からの同級生であり、小さな時から遊んでいるような仲で、それが今や商工会の会長。このように基山町というのは色々な歴史が繋がって出来上がっており、これからもまたそういう未来をみんなで紡ぎながら新しい基山町の未来が出来てくるのかなと思っている。

本日は新しい基山町のキャッチフレーズ案が提示される。結論から言うと、「アイが大きい基山町」という10年間使った言葉というのがやはり結構定着してきていることと、それを超えるようなものがなかなか思い浮かばなかったというのがある。特に「アイが大きい」の「アイ」は「KIYAMA」の「I」が大きく山になっていて、それが「基山（キザン）」であるという意味合いとなっている。基山（キザン）についてはこれから5年ぐらい整備を続けて、もっともっと昔の輝きを取り戻すようにと考えているため、「アイが大きい基山町」というのはもう10年ぐらい同じようにやっていかなければならないのではないかという気持ちがあった。そのため、「アイが大きい基山町」はそのまま残して、今回は「シン・アイが大きい基山町」という案を提示させていただく。

「シン」というのは、シン・ウルトラマンやシン・仮面ライダーなどあるが、どういう意味かということ、新しいという意味に加えて、真実の「真」、信じるの「信」など色々なものを重複させているのが「シン」というもの。そのため基山町も「シン・アイが大きい基山町」という形で、加えてシン・仮面ライダーやシン・ウルトラマンにはない要素として、基山町はこれからシングルマザーが増える「シン」、一人暮らしの高齢者が増える意味での「シン・プラチナ」というような意味合いを合わせてその「シン」を克服していく、弱点ではなく長所として捉えることができるようにしていくということも含めて「シン・アイが大きい基山町」で提案させていただいている。「それよりももっとこういうのがいいのではないか。」という話は今からでも全然間に合うので、ぜひ忌憚のないご意見をいただければと思う。

もう一つ、キーワードとして先ほど言ったように、基山町はこれから15年間ぐらい一人暮らしの高齢者がすごく増える。それからシングルマザー、シングルファザーの子育て世帯が出てくるので、そういう多世代の交流を越えた形、交流のもう一歩上を行くような形で「共に創る」という「共創」という言葉を使っているが、多世代で共に創っていく「多世代共創」の世界も基山町のこの10年間では絶対に必要ではないかと思っており、それらをキーワードとして今回提案をさせていただいている。

ぜひ皆さまからご意見をいただき、少しでも基山町が良くなるように、この総合計画の策定についてこれからもよろしくお願ひしたい。

3 会長あいさつ

私は第5次総合計画から関わっており、「アイが大きい基山町」という非常に分かりやすいキャッチフレーズで計画が進められてきたなと思っている。今回は、町長がおっしゃられたが、「シン」という流行り言葉と言えば流行り言葉だが、その「シン」というところに色々な意味を込めた新たな第6次の計画案があるので、皆さまから自由に活発なご意見をいただければと思う。

4 委員の委嘱

(令和6年4月1日から新たに委員となられた方に対し、町長から委嘱書を交付)
(公務により町長が退席)

5 自己紹介

(令和6年4月1日から新たに委員となられた方のみ)
(坂本委員)

区長会会長をしている。基山町に住んで43年になり、区長2期目となっている。一番人口の多い世代の昭和22年生まれで、先ほど町長よりあと15年したらだいぶ人口が変わるだろうという話があったが、あと5年もすれば我々の世代はかなり減るのではないかと思っている。総合計画は10年計画なので、それまで見届けていけるように長生きしたい。どうぞよろしく願います。

(毛利委員)

社会福祉協議会の事務局長を4月から務めている。基山町からの派遣という形で社協の方で色々な事業をさせていただいている。社協は直接町民の方、特に高齢者の方と接する機会が多く、色々な活動に参加をさせていただいている。そういった中で社協の取組は今後も非常に重要になってくると思うので、一日一日、役場でできなかったことを体験させていただきながら勉強させていただいてる。住みよいまちづくり、安心して暮らせる基山町ということで、社協が何をどれだけできるかまだ分からないが取り組んでいきたい。

(平川委員)

町長からもあったとおり、6から7年ぐらい前にこども課の方にお世話になり、ちょうどその時に毛利委員や亀山課長が定住促進課にいらっしゃって、定住と子どもを両輪の柱ということで子育て支援を一生懸命考えたことを今、思い出した。

その時に商工会の会長さん、区長さん、民生委員の方、社協の方、農業委員の方、中学校の方などみんなが子育て支援ということで一生懸命こども課にご意見を寄せていただいたので、本当に町一体となって子育て支援を考えているということを痛感した。

また基山町に携わらせていただけることを非常に嬉しく思う。

6 会議録署名委員の選任

(事務局)

議事に入る前に、本日3名の委員が欠席となっているが、委員18名のうち過半数の出席があるため、基山町総合計画審議会条例第6条第2項に基づき会議が成立していることを報告する。

また、この会議は基山町審議会等の会議の公開に関する規程に基づき、公開することとしているため、ご了承いただきたい。

(会議録署名委員に田口委員と毛利委員を選出)

(会長が議長となり進行)

7 議事

(1) 基礎調査報告

(森田会長)

議事の(1)基礎調査報告について事務局より説明をお願いします。

(事務局)

(事務局より(1)基礎調査報告について説明)

(森田会長)

ただ今の事務局からの説明について、御意見、御質問はあるか。

(田口委員)

非常に分かりやすいアンケートの集計がされている。基山町の課題の一番大きい部分でありこれからもずっとそうなんだろうと思うが「商業」、「移動手段」がやはり商工会としても非常に危惧している部分である。

この部分をどのように解決するかということだが、商工会も非常に高齢化が進んでおり、各地域の小規模事業所で後継者がいないということが非常に目立ち始めた。それを受けて我々はどうするかというと、事業承継のアドバイザーとして佐賀県も5から6人ぐらいのスタッフを設置して、4から5年ぐらい前から集計、ヒアリングに当たっている。今、佐賀県内で事業承継が決まっていない事業所が、小規模事業所を含めて約6割ある。そして全く当てがないというところが4割くらいあるということで、その全く当てがない4割の中に、もう自分の代で辞めようかと思っているような事業所がかなり含まれている。

当然商工会のパワーが失われていくということになると、やはり買い物の不便さが出てくる。基山町内の大きなスーパー、駅前のサンエーやコスモス、ドラックストアモリなどがあるにはあるが、中心部に偏っているというところもあってか、不便さを感じている方々が非常に多い。そのような買い物難民に対する移動手段をどのようにしていくか。基山町内を走っているコミュニティバスなどの利活用というのものもあるが、なかなか時間帯の問題や乗れる人数なども含めて非常に課題を感じている。熱中症に絡む気温の高さで子ども達の登下校に対して通学バスの支援が必要ではないかという話も教育委

員会の中で出ている。

同じように、やはり買い物に対する要求というのは非常に日々高まっている。

ただ、我々商工会でどうにかなる問題でもなく、各事業所がどのように承継できるのか。最近ではM&Aという手法を利用する人たちも非常に多いが、これはもうあくまでも東京なり大阪なり都会でその事業に魅力を感じる人が承継していくもので、若い大学卒のベンチャーみたいな人たちもいる。ただ、こういう田舎の地域の小さなお店をやっている人たちがこれらをどうやってするのかというのはまた無理がある話でそう簡単ではない。

商業というのは町に限らず国全体でとても重要な分野だが、ここがアンケートの中で一番満足度が低いというのは、町民の皆さんにとって大きな課題であり、商業の発展に危機感を感じているというのはよく見て取れた。高齢化社会を迎えていく中、そしてこれから人口減少も始まるので、30年後ぐらいに1億を割るか割らないかくらいまで減った時に、その時点での商業あるいは経済全体がどうなっているのかは分からないが、そういったところを含めて、総合計画は10年間の計画だが、今後20年後30年後を見据えた時には、もっと大きな波が来るということもありえるので、このポイントは改善すべき。

観光についても同じようなことがあり、観光資源は大興善寺や基肆城、基山（キザン）の草スキーなどあるにはあるが、それを活用するためのマンパワーが減っている。また、SAGA2024もそうだが、基山町に来た人たちをおもてなしする商店、商業者も不足気味になってくる。

足元は横並びでいけると思うが、5年後10年後20年後にはさらにマンパワーが削られていくことを考えていくと長期にわたって、こういう施策が重要になると思う。良い部分は伸ばし続ける必要があるが、やはり悪い部分を重点的な施策として検討していただくことが必要かと思うので、この辺は町に重要課題としてお願いをしたい。

（事務局）

まさしく今朝、テレビでも福岡市がライドシェアタクシー事業を民間、個人で行えるようにするという話を取り上げられていた。タクシー事業も乗務員が不足しているということで、民間の事業者いわゆる2種免許を持っていない方でも空いた時間でタクシー事業を行って、足りない人を補おうということ。根本は今、田口委員がおっしゃられたとおりの人が足りない。今後10年間で高齢者の方は元気なまま高齢になられるが、働き手としては第一線では見込めない。一方で、少子化で人はどんどん減っていく。

国の方ではコンパクトシティや立地適正化などに取り組んでおり、基山町で言うと、基山駅やけやき台を中心に商店、商業を活性化させて、人口密度を高めてそこで何とか商売をされている方の商売を維持させようとしている。周辺に住んでいる方は当然そこに商店がなくなるので、そこをどうやってモビリティで繋ぐかというところで、地域公共交通を活用して、基山町でいうと宮浦や園部などの中山間地と基山町の中心部の基山駅までどうやって繋ぐかというところを今、国が取り組んでいる。

基山町はすでにできており、これから先は公共交通もコミュニティバスは人が乗っていないまま動いているケースが多いので、今、何を考えているかというところ、デマンド化

して、予約制にしてデマンドタクシー、デマンドバスとして無駄な動きをせず、お客さんが家から公共施設まで自分の好きな時間に移動する。それだけだと、ただのタクシーなので、乗り合いでシェアをして何とか動かしていこうという構想をしている。そういったところも今後の10年間の構想の中ではしっかりと盛り込んでいきたい。また、根本的には人が足りていないから働き手が少ないということで、今はもう、一人が一つの仕事をしていたは賄えないような時代に突入しているので、田口委員がおっしゃられたようにその問題が根本にあるということを前提に今後の10年間の計画は立てていこうと考えている。そこに何が必要かというやはりデジタルの力を一定程度活用しながら、産業商業を盛り上げていくような、何か地方単独でもできるようなことはないかという視点をしっかり持って、計画策定を進めていきたい。

(田口委員)

関連する話だが、先週5月23日に佐賀県自動車産業振興会という会議があり、その中で紹介されたことがこのテーマに合致する話だった。日産自動車九州の社長が特別講演をされてその中で紹介いただいたが、日産自動車の本社がある横浜市の方で自動運転の実証実験がスタートしている。市を巻き込んで市内を無人で回っており、自動運転化が進むために、色々な実証を行っている。それが今おっしゃったように、市内に在住する方も訪れた方もスマートフォンでアプリを選択して自分がいる場所を設定しておく、自動運転で回っている一番近い車が拾っていくということをやり始めている。これが順調に進んでいくと、色々なことで拡張していくわけだが、これをモデル化してイージーライド、簡単に乗れるという名前でシステムを組んで日産自動車がやり始めた。

この実証実験を福島県の浪江町で、浪江スマートモビリティと提唱してドライバーレスを一部で実証するというをしている。これから先の提案として出されたのが、全国の市を中心にその中から3から4つ選択して実証実験をする試みを始められている。それを全国にぜひ広めていきたいということだった。基山町が手を挙げて採択されるかどうかは分からないが、いち早くそのようなニュースを察知して、九州で初めてそういった実証実験ができるような提案ができないかと産業振興課長にも話をしたところ。

やはり最先端の技術を活用していくことも十分必要で、確かに安全性も難しいところはあるが、もう世界中でこのような動きが加速しているので、遅かれ早かれこういう時代がやってくる。基山町も情報収集して活用していく道を探っていただければこういう満足度も高まっていくと思う。

(議長)

他に御意見、ご質問はあるか。

(天野委員)

第5次の進捗度評価報告書の9ページで学校教育が50%となっている。これについて、私も教育に携わってきたが基山町も様々な面で様々な施策をやっているという状況の中で、50%というのは意外に低いなと思った。どのような判断で50%と出されているのか非常に疑問に思っている。

もう一つ、中高生のアンケートの5ページに「基山町が好きかどうか」という質問があり、非常に難しいところがあるが、「好き」が59.4%、中高別や居住地別でも70から60%くらいあるというのは非常に素晴らしい結果だと思っている。

鳥栖市は、ふるさとに誇りを持ち鳥栖市を愛する心を育てようということをやっていたが、小学生は高いが、中高生でここまでの結果はなかなか難しい。これは基本構想案の「はぐくみ」に関連するが、基本的にこういったことを大切にしていけることがやはり一番大事と思っているので、先ほどの進捗状況が低いという部分の原因について事務局で考えているところを教えてください。

(事務局)

達成率については、80%、50%、それ以下の3段階で評価しているが、実施率を見ると全て100%となっているので、第5次で掲げている施策については全てこれまでの10年間で実施しているということをご理解いただきたい。その上でA評価の数で達成率を出しており、これは確かにご指摘のように50%というはまだ施策が上手くいっていないのではないかという評価もされるかと思うが、これは現在取り組んでいるところで、私どもとしてはB評価についても50%以上の進捗率で担当課の方が取り組んでいるという理解でいるので、ここは引き続き達成率が高くなるように今後も継続してやらなければならないという認識でいる。決して教育分野について、事業が遅れているという理解はしていない。

後ろの方に第5次基本計画の個別分野の具体的な施策に関する担当課の中間評価、後半の取組状況、今後の課題ということで記載をしているが、ここは少し担当課としても厳しめに評価をしているところではある。担当によってはA評価をしているところもあるが、教育委員会については、真摯にこの目標達成に向けて取り組んでいるところで少し厳しめに評価されているところも見られた。

また中段にある部活動改革は天野委員もご存じかと思うが、特に地域を巻き込んだ形で教員の働き方改革も含めて今、学校も取り組んでいることであるが、なかなか難しい問題であり、この辺については取り組んでいるもののまだ道半ばということでB評価という評価をしている。

ICTを活用した教育現場の推進や働き方改革を含めた教職員の環境整備といったところも出てくると思うので、しっかりと人づくりのところに取り組んでいきたいと思っている。

(神原委員)

田口委員がおっしゃった、商業の満足度が低いということだが、商業についてみた時に「基山町はコンビニが多くて楽しい」といったご意見があったし、スーパーなどはたくさんあると思う。商業の概念の中で日用品と買回り品とに分かれた時に、高額商品や衣料品などが含まれると思うが、このアンケートの中で分けているのか、まとめているのかで捉え方が違ってくると思う。今後の基山町の方向性として商業の分野を重要視されるならばどの分野を重要視されているのか。

もう一点、交通について、これも年配の方が特に大変だと思うが、私が福岡市に勤め

ていた時に思っていたことがあって、基山町の場合は車さえあれば役場や買い物にすぐ行けるが、福岡市内で市役所に行こうとか、どっか行こうとなると渋滞に巻き込まれてなかなか到着しない。街中ですぐに動けるというのは大変素晴らしいと思うので、高齢者の方が例えばタクシーの割引などもっと安く移動できる手段さえ取ればもっと買い物しやすくなるのではないか。

(事務局)

基山町内における商業、どういう買い物形態をといるところだが、基山町は地の利が良く、ご存じのとおり基山町周辺に大型商業施設が乱立している状況で、今年の11月には小郡市にコストコができることや、近隣には最近ロピアという商業施設ができており、基山町ではないけれども基山町の利便性というのは向上している。一方で、日用品の買い物については町内でドラッグストアやスーパーを使ってある。大きな買い物やまとめ買いは皆さん近隣の施設を利用されているので、そこを阻害するようなことはまちづくりとしては考えにくいですが、ちょっとした日用品、あとは本当に移動が困難な方に買い物が不便にならないようにというところは町としても一定の商業機能は守っていくということですみ分けをしていかなければならないと考えている。

あともう一点はEコマース。いわゆるネットショッピングというのがだいぶ前から結構主流になっており、基山町のエリアというのは物流の拠点でもあるため、商品によっては頼んだその日のうちに届くというようなこともある。買い物弱者対策の点では、そういった高齢者の方がデジタルを活用して、買い物に行くのではなく家に配送してもらうという視点も町としては推進していったら、本当に買い物ができない状況は避けなければならないし、物理的にも運んでもらう方が便利というところがあるため、今後はDXの一環の中で広めていく必要があると思う。

欲を言えば、町内の商店から配送がされるというところがモデルとして達成できればと思う。産業振興協議会の中でも宅配の部会や通販についての勉強などを一時期されていたがそういったものを発展させて町内で完結できれば一番モデルになると思うので、今後研究していけたらと考えている。

先ほど天野委員から中高生アンケートについて話があったが、「基山町が好き」というこう子どもが非常に多いと私もアンケート結果を見て思った。これは私の主観的な考えかもしれないが、基山町は公立中学校が一つしかないということで、小学校は2つあるが、最終的には私立や県立中学校に行かなければ基山町の子どもたちはみんな基山中学校でみんな同級生となる。今は1年生から3年生までみんな仲良しでそのまま高校に行って大学、就職する方が多いが、結構私の周りは基山町が好きで「基山町に戻ってきたい」、「やっぱり地元が良い」という方も多く、成人式の時にみんな顔見知り。こういったところも基山町のまちづくりにとってすごくプラスなデータだと思う。今回のアンケート対象者には東明館の学生さんも入っているが、東明館の方も昔に比べてすごく基山町のまちづくりに参画してくださっているので、第2の故郷というような形で基山町に愛着を持っている方が増えているのではないかと考えている。この流れはぜひ次の世代にも繋げていきたい。

(平川委員)

このアンケートを拝見させていただいて、今、国の方でも少子化を踏まえて包摂的成長を目指すと言っており、その包摂的成長というのが誰一人取り残さない、みんなが輝ける成長ということで、冒頭に町長もおっしゃられたがシングルマザーや高齢者含めみんなが輝けることを目指すというのが非常に少子化の時代としては良いのかなと思った。

その中で若者、女性の可処分所得の増加と可処分時間の増加、あと子育て環境の整備ということを言われている。可処分所得でいくと、働く場所がきちんとあるというところで、町内アンケートで移住先として不足している魅力は「働く場所の豊富さ」というのが挙げられているので、田口委員としてはそうは言っても事業を引き継ぐ方がいない問題があると思うがやはり働く場所があるというのは非常に重要であると思う。

また、可処分時間の増加ということでやはり働き方。企業も副業など色々な働き方があると思うので、そういった働き方や小さくなくてもいいので地域おこし協力隊の方が新たに起業するなど色々な働き方が出てくると思う。

あとは子育て環境の整備というところでは基山町は非常に力を入れているので、そういう観点も大切だと思った。

私も中高生アンケートの結果を見て、「基山町を離れると思うがいつかは戻ってきたい」という方が30%ぐらいいらっしゃるということで、この若者にアンケートを取ったその意見を反映させることは非常に大切だと思った。

(事務局)

雇用は今後、人が少なくなる上でどの地方も苦戦を強いられるところだと思う。ある企業からヒアリングをしたところ、企業進出の今の一番のネックは人が集まるかどうか。投資をしてそこに事業所なり工場なりを作ったところで人が集まらないのではないかとということで結局は人が多い都心の近くに進出する。田舎に土地はあっても、企業が来ないというような状況で、そこは苦しいところだと思う。基山町は地の利があって、福岡市を中心にまだ人口があるのでその辺は他の自治体に比べれば恵まれているところだとは思う。

そういった点と、あと基山町の方で今年も合同企業説明会を開催させていただいたが、基山町に居ながら通える企業とのマッチングをテーマとしている。先ほど可処分所得の話があったが、都会で仕事をしたいという方でも都会で暮らすコストと基山町に住んで都会に通勤するコストを比べた時にやはり基山町から通った方が安いのではないかと、充実した暮らしが田舎の方でも過ごせるのではないかとということで、基山町に居ながら通える企業とのマッチングに力を入れている。産業振興課にハローワークの機能を持たせて、商工会にもご協力いただき、近隣市町に呼びかけをしながら雇用のマッチングに力を入れているので、そこは引き続き10年間しっかり取り組んでいきたいと考えている。そういった点は最終的に人がいないというところに繋がるので、この10年間の計画にしっかり盛り込んで自治体としても対策を打っていきたい。

(2) 第6次基山町総合計画基本構想案

(森田会長)

内容が第6次の基本構想案に近づいてきているので、次の議事に入る。

議事の(2)第6次基山町総合計画基本構想案について事務局より説明をお願いします。

(事務局)

(事務局より(2)第6次基山町総合計画基本構想案について説明)

(森田会長)

ただ今の事務局からの説明を踏まえて御意見、御質問はあるか。

(坂本委員)

乗り物とかそういう物の移動、車の移動についての話があったが、将来的に情報の移動というものを取り上げていただきたい。色々な情報ツールがあるが、基山町では今ホームページや広報紙で情報を発信されている。高齢者になってくるとなかなか字を読むのがつらい、字が小さいということがあり、ホームページを見ろと言われてもタブレットやスマホ、パソコンなど色々あるが日常的には見ない。何か情報を上手く伝えられる方法をもう一度模索してほしい。一つの提案だが、いつも高齢者が見ているテレビを情報ツールとして有効活用できないか。チャンネルを合わせるだけで基山町の情報が見れるというようなことができないか。たまたま今、KBCのテレビで基山町を取り上げてもらっており、dボタンを押すと基山町の情報が流れている。

(事務局)

坂本委員がおっしゃられたように、KBCの「dボタン広報誌」というサービスがあり、KBCしかしていない、自治体の情報をデータ通信で広報してくれるというもので基山町が契約をして実施している。KBCにチャンネルを固定してdボタンを押さないと見れないので、その他の番組を見ている方については今からの課題。広報紙は昨年度から月に2回配布していたものを1回に変えた。少し厚みは増したが、町民さんや区長さんなど配布される方から配布の負担があるというご意見をいただいたことや、私たちもなるべく伝えるべきことを的確にということでも2回を1回にした。

将来的には紙がなくなって、全てデジタルになるかならないかが大きな議論だが、やはり紙はなくなるかなというところ。回覧板を見て知ったという方も一定数いらっしゃるの、ホームページそれからLINEで通知をただけでは町民さんに伝わらないことも現実。そこはもう双方向でデジタル化を進めながらもデジタルデバインドと言われる情報弱者の方に対しては紙で、それから基山町という小さな町の特徴を生かした地域コミュニティで伝えるという手段を今後検討していかなくてはいけないと考えており、大きな課題である。

一方で若い方は今テレビを見られない。YouTubeを含めたSNSやテレビを録画して自分の好きな時間に見るなど生活様式が変わってきていることもある。そういったところも双方向、同時並行で進めていきながら皆さんに伝わる手段というのを今後も

検討し、取り入れるべきところは取り入れていきたいと考えている。

(橋本委員)

将来像について「シン・アイが大きい基山町」ということで、個人的な受け取り方で本当に申し訳ないが、このカタカナの「シン」というのがまずもう、少し遅れている。

もともとエヴァンゲリオンの監督が始めたこの「シン」というカタカナ表記。そこには色々な意味があって、自分の作品をリメイクする時に頭に「シン」と付けたのが始まりで、それが今トレンドになって色々なところで「シン」が見られるようになった。それを今、10年間続く総合計画の頭につけるのはちょっと。そのうち沈没していく。今はトレンドに乗っているかもしれないが町民としては恥ずかしい結果になりそうな気がするので、今お伝えしなければならぬかなと思った。

(事務局)

10年前に第5次総合計画「アイが大きい基山町」を策定した時も、私は担当として携わらせていただいたが、この時も非常にマイナスの反響があった。「基山町はふざけているのか」、「抽象的過ぎて本当に何をやりたいのか分からない」といったご意見をいただく中で、当時基山町の認知度が不足しているという課題があり、何か旗印になるキャッチフレーズをもってまちづくりをやるんだという強い意志で、この「アイが大きい基山町」で皆さまに認めていただいたという経緯がある。町長の冒頭での挨拶にもあったが、「シン」というのは橋本委員がおっしゃるように少し遅れているところを私も認識しているが、決してウルトラマンや仮面ライダーから取ったわけでもなく、この「シン」に込められた意味、本当にこの基山町をもっともっと進化させていきたいという思いがあるので、受け取り方としてそのようなご意見があることをこの10年間は真摯に受け止めていかなければならないと思っている。「シン」にまつわる言葉はもっと色々あり、私たちも分析して考えた結果これが良いのではないかなと思ったので、その思いはこれからまた温かく見守っていただけたら。

(天野委員)

この「シン」と聞いた時に正直最初はどうかと思ったが、説明を聞いていると今から町民の方にしっかり見ていただいて育てていくということなので、それで良いかなと思う。ただ、「シン」という言葉の意味合いについて資料に6行あるが、ダラダラと書かれて伝わりにくいので、もう少し見やすいように分かりやすいように示していただきたい。

やはりこの将来像に関する文章が一番大事だと思うが、将来10年を見据えた上で地方創生や安心安全などきちっとした視点、基本姿勢というものがあつた方が良いのでは。

事前資料としてもらった基本構想案の資料は非常に見づらかったが、本日配られた資料は基本施策の方向性を一つにまとめてあり見やすくなっている。そういった意味でやはり図式化するとか、ランドデザインを示すなどしていただくと見ただけで「シン」の意味が分かりやすいと思う。

(事務局)

今回このビジョンを作る時も第一に町民の方、見られた方が分かりやすいようにあまり行政用語を使わないといった視点で、第5次で5つあった基本施策も4つに束ねるなど少し挑戦しているところ。

それから基山町については、この10年間実際に取り組んできて人口も減少から微増に転じており、町の勢いを取り戻したところであるため、この「アイが大きい基山町」というのがまさしく大きなビジョン。

サブタイトルのところが、町長のお話しにもあった基山町が取り組むべき姿勢「多世代共創による“ちょうどいい”まち基山」であり、下の方に説明はあるが、今ご指摘いただいたように長くならないように少しまとめて簡潔になるように文章を見直したい。

(神原委員)

天野委員がおっしゃったように、この「シン」の意味が分かりにくいということで私が思ったのは、イラストで新しい10年を示したり、皆さんが親しめるイラストなどを入れると良いかなと思う。

(事務局)

デザイン・レイアウトについては今から見やすいようにしていきたいと考えている。色々な市町の総合計画を見ていてイラストを入れてあることでイメージが伝わるなど思うものがあるので、直感的に分かるようにそういったものを取り入れていきたい。

基本構想については天野委員さんがおっしゃったように他にも重点プロジェクトなどがあり、これだけでは基山町が何をしたいのか全く分からない。今回はここまでしかお出しできていないが、この他にも基本構想の中で重点的に取り組むべき施策やプロジェクトというのは順次お出ししていきたい。今日は一旦、この構想の旗印になるようなものを皆さまにお示ししている状態。

(森田会長)

私から一点、今ご指摘があったように、将来像に係る文章についての1段落目。これが2行目から非常に長く、分かりやすさに繋がらない。それから2段落目の3行目以降の「この実現に向けて」以降も6行にわたって一文になっている。一文が長すぎると分かりにくいのでその辺を工夫していただきたい。

それからもう一点、実は第5次の時にまちづくりの方向性の中の一番頭に「自然」というキーワードがあったが、今回基本政策と方向性の中に自然というワードが入っていない。施策の中に自然があるが、これは一つの施策として自然をどうするかということだと思う。このアンケートの中にも自然に対してすごく好意的な結果が出ているので、例えば「うるおい」のところに「自然と共生した快適な生活基盤をととのえるまちづくり」というように「自然」のキーワードを中にいれていた方が、基山町にとって一番大事な肝になると思う。

(事務局)

将来像の文章について一文が長いので、こちらについてはもっとわかりやすい簡潔な文章で表現を改める。

それから、アンケートのご報告をさせていただいた中で皆さまから「自然」というキーワードを多くいただいているので、会長からご意見をいただいた「うるおい」の部分などに自然という単語を入れた表現に改める。

(天野委員)

住民ワークショップの中で出た「つながり」という言葉をぜひ入れて欲しい。特にコロナや地震など災害があった時に何が一番大事かということと人とのつながり。

このはぐくみ、やすらぎ、にぎわい、うるおいの中に一つ入れるということではないが、キーワードとしてはやはり今こういう社会だからまずつながりというものをぜひ入れて欲しい。

(事務局)

どこかに入れられないか検討する。

(平野守委員)

先ほどから自然豊かな環境ということで色々意見がでていますが、田口委員からもお話しがあったように地元商業の高齢化が進んでなかなか厳しい状態だが、農業も高齢化と担い手の減少で非常に厳しい状況。

その中で、担い手と言ってもなかなか個人では難しいということで、今までも産業振興課含めて色々なアイデアを出していただいているがこれからまだ厳しくなってくる。

基山町は今開発が30町、その中で25町はもう確定で住宅それから工場、物流ということで25町近く田んぼが減ってくる。そういうことで、皆さんから色々なアイデアをいただきながら農業としてもどのようにやっていったら良いか役場と一緒に努力していきたいと思う。この担い手不足というのはどこも一緒に、新聞等を見ていると米どころの新潟でさえ、もう担い手不足と言われている。色々な情報があると思うので、この中にいれていただきたいと思う。

(事務局)

今いただいた意見は、基本計画の中でしっかりと農業施策のところに盛り込んでいきたいと思う。基山町は市街化区域と市街化調整区域で線引きしており、開発をしていい地域と開発をしてはいけない地域とに分かれている。開発をしてはいけない、農業を守っていく地域の開発を実はどんどん進めているという現状がある。

平野守委員がおっしゃられたのは、土地はあってもなかなか自由に開発できる場所は少ないということで現状を打破するために今、地区計画という手法で地元の地権者の方、それから民間事業者、役場が一体となって、市街化調整区域という開発をしていないところの開発を進めている。その結果が裏返すと農地がどんどん減っているというような現状になる。

一方で農業をされている方の担い手不足、後継者不足それから高齢化などでなかなか農業が続けられないという現状もあって、役場としては農業も守らないといけない、地域も発展させなければいけないというその狭間に立ってバランスを取りながらやっているところ。農業というのはしっかりと守っていかなければならない部分であるため、そこは基本計画の中でしっかりうたい込んでこの10年も基山町の農業を守るように施策の方をやっていきたい。

(毛利委員)

これから基本構想なり施策をどうやっていくかというところで検討していくと思うが、社協はボランティアスタッフで成り立っている組織でありこの団体ヒアリングをされている22団体の中でも、高齢者の世話人や役員の不足など組織が今後どのように継続していくかというところが非常に検討材料になってくる。

役員は誰でもなりたくはないと思うがそうすると団体がなくなっていく。対策として何ができるかというのは私もすぐには思いつかないが今後重要になってくると思うので、ぜひ検討材料にしていきたい。

(事務局)

これもまた人の問題になるが、今年が65歳になっており、65歳まではみなさん普通に働いて、65歳からおそらく70歳ぐらいまでは再雇用となると自由な時間ができるのが70歳からというような時代に突入している。

昔であれば60歳定年で65歳まで再雇用等で働いて、65歳から社会福祉協議会が行っているようなボランティアの担い手や地区の役員になるといった方もどんどん供給されていたがそれがもう途絶えてしまっている。本日区長会長さんがいらっしゃるが、地区の役員の担い手がまずもういない。当然ボランティアをされる方も少なくなっているということで、そこは構造的な問題かもしれないが当然、社会福祉協議会と役場が一体となってまちづくりをしていかないといけない。

あまり先進的なことはできないかもしれないが、しっかり社会的課題を捉えながら福祉分野にもきちんと施策として盛り込んでいきたい。

(平川委員)

資料4で第6次の施策体系のところには今は第5次の内容が入っているが、今後これまでのご意見をもとに新しい施策が文言として入ってくるというイメージで良いか。

(事務局)

この資料4を作った意図としては、この第5次計画では5本あったまちづくりの方向性を4本に変えているので、4本になったからと言って取り組むべき施策やこれまでやってきたところは減らない、どこかに含まれているということが分かるように作った。その上で、平川委員がおっしゃられたように第5次施策と書いてあるところに新しいものが追加されたり統合されたりという動きが出てくる。

(森田会長)

他に御意見、ご質問はないか。

本日予定していた議題が全て終了したため、進行を事務局にお返しする。

8 その他

(事務局)

最後に次第の8番その他として、次回の審議会の開催について事務局より説明させていただきます。

(事務局より次回の審議会の開催について説明)

これをもって第2回基山町総合計画審議会を閉会する。

基山町総合計画審議会条例第11条の規定により、ここに署名する。

令和6年 月 日

基山町総合計画審議会 会長

委員

委員